

## 夢から目標へ

星野有羽 静岡県

目を閉じると思い出す。家族で旅行中、ちょうど5歳の誕生日を迎えたその日は満天の星空だった。空を眺めていると、一つの星がキラキラと大きく輝きこぼれるようにサーッと流れた。

「あっ」

大きく目を見開いた。偶然見た流れ星、この一瞬の出来事が私の道を照らしてくれた。私は宇宙に興味を持ち、宇宙に行きたいと強く思った。そして宇宙飛行士になりたいという大きな夢を抱いたのだ。

小学生時代、宇宙のことを調べ知識を付けた。宇宙飛行士の講演会にも何度も行き、宇宙の素晴らしさを生の声で聞きドキドキした。宇宙へ近づいたように感じ、ますます行ってみたくなった。

大勢の人に私の夢は宇宙飛行士です。と堂々と saying していた。そして間違いなくなれると信じていた。

中学生になり、私の夢を語る時間が少なくなった。それは宇宙飛行士になりたいと軽々しく言えないからだ。夢が目標になりその目標を達成するためには努力しなければいけない事がたくさんある。夢を話す時間がない。現実は厳しい。

数年前、私の宇宙へのわくわくした気持ち、絶対に宇宙飛行士になりたい思いを手紙に書き、あこがれの日本人初の女性宇宙飛行士に渡したことがあった。今思うと、何にでも熱中し、突き進む恐れを知らない、行け行けの小学生だった。でもその後、びっくりしたことがあった。とても多忙の中、返事を下さったのだ。手紙は私の夢を応援してくれる内容で、温かい言葉があふれていた。その中に、『夢に向かってもう一歩』と書かれていた。私の支えであり、宝物だ。

夜空を眺める。神秘的だ。未知のことがたくさんある宇宙、だから人類は宇宙へ進む。私の夢も未知だ。これからも夢に近づくために、努力し続けたい。